

# 特別支援学級で「生きたお金」の金融教育を

## 金融教育の現場レポート

「金融教育」は、社会の中で生きる力を育むことを目的として行われる教育です。このコーナーでは、金融教育の授業がどのように進められているか、教育現場に立つ先生や、授業を受ける生徒の姿をレポートします。

今回は、中学校社会科の非常勤講師として特別支援学級における金融教育に挑戦した、山中みゆき先生の取り組みをご紹介します。

※山中先生はこのレポートで紹介されている実践をまとめた小論文で、金融広報中央委員会主催「第10回金融教育に関する小論文・実践報告コンクール」(2013年)「実践報告部門」優秀賞を受賞されました。

### 特別支援学級における金融教育の試み

山中先生は愛知県内の市立中学校で社会科の非常勤講師を務めており、教員免許のほか、消費生活アドバイザー、ファイナンシャルプランナーの資格を持っています。これまで何校か中学校の教壇に立つてきましたが、昨年初めて、普通学級だけでなく特別支援学級を担当する機会を得たそうです。消費者教育や金融教育をもっと広めたいと思っていた山中先生は、特別支援学級ではぜひ、『生きる力』に直結する金融教育』を実践しようと、独自のカリキュラム作りをスタートさせました(資料1)。

「知的障がい者が本人の意思に反して高額の契約を結んでしまうなど、消費者トラブルに巻き込まれる事例が報告されています。特別支援学級の生徒たちもやがて進学し、現金や電子マネーなど、お金を使う機会も増えるでしょうし、卒業後の生徒の多くは給与所得者になります。人間は生まれてから死ぬまで消費者であるわけですから、お金について学び、トラブルを未然に防止できるように金融教育を特別支援学級でぜひやってみたいと思いました」と山中先生は話します。



### 「お買い物ゲーム」からスタート

山中先生は最初に4時間分の指導計画を作成。テーマは「お小遣いを使ってみよう」「お小遣い帳をつけて

愛知県  
安城市立安城北中学校 非常勤講師  
山中みゆき氏

【資料1】特別支援学級 社会科学習指導案

■単元／指導計画

「お金について考えよう」

- (1) お小遣いを使ってみよう…1時間
- (2) お小遣い帳をつけてみよう…1時間
- (3) お金のトラブルを考えよう…1時間
- (4) 未来を考えたお金の使い方を考えよう…1時間

①本時 「お小遣いを使ってみよう」

目標 いろいろなお金があることを理解し、お金の使い方を理解する  
 準備 教師…A社の教材「おかねりかいキット」・テキスト 生徒…電卓  
 展開 学習課題「よく考えてお金を使おう」

時間	生徒の学習活動と内容	教師の支援・留意点と評価
0分	1 夏休みの宿題で買い物したことを思い出させ、発表させる。	・既に提出した宿題から、各人が行った購買活動について、どこで・なにを・どのように、買ったか発表させる。 ・クレジットカード・電子マネーなどの話が出たら、無印紙にお金があるわけではないことを説明。
10分	2 お金について知ろう。 ○予想される生徒の反応 ・1円しかないから車を買うの大変だね。 ・大船は1本で十分だよ。 ・気がつかない点 ・なぜいろいろな種類の硬貨や紙幣があるのか。	・A社のテキストで硬貨や紙幣にいろいろな種類があることを説明する。 ・買い物をした時にどの硬貨を使ったか、発表させる。 ・1円しかないから車を買う時どうだろうか、1万円しかないから大船を買うときどうだろうか考えさせる。 ・モノには種類があることを理解させる。
25分	よく考えてお金を使おう	
3分	3 お買い物ゲームをしよう。 ・1人がレジ係、他はお客さんになる。 ・お客さんは500円ずつお小遣いをもらい、欲しいもの(カード)を選んで買う。 ○気がつかない点 ・欲しいものがあつたときは、よく考え、時には我慢することをお伝えよう。 ・収入一支出→貯蓄(領収書機能)	・「おかねりかいキット」使用。500円の予算で買い物させる。 ・生徒に合計500円になるようお金を用意させる。計算が苦手なA子には500円玉のみ、計算ができるB子には100円50円10円を混ぜるなど、理解度に合わせて選取をうながす。 ・使えるお金に限りがあることを理解するために、C子に欲しいものが500円を超える場合、優先順位をつけるよう指導する。 ・お小遣いがあつた場合、それは何か考えさせる。
45分	4 まとめ ・欲しいものはすべて買えるわけではない。 ・買い物をして使わなかったお金は貯めておけるね。	

②本時 「お小遣い帳をつけてみよう」

目標 適切なお金の使い方を理解する  
 準備 教師…A社の教材「おかねりかいキット」・知るぽると「おこづかいきろく(お小遣い帳)」  
 生徒…電卓  
 展開 学習課題「必要なものと欲しいものの違いを知ろう」

時間	生徒の学習活動と内容	教師の支援・留意点と評価
0分	1 今欲しいものを発表する。	・何故欲しいのか理由を聞き、欲しいものと必要なものの整理をする。
5分	2 どうしたら欲しいものは手に入るのだろう。 ○気がつかない点 ・現代社会ではお金が必要である。 ・お金は働いて得た対価である。 ・交換機能・価値尺度機能	・お金がない場合、物々交換で入手しようとするは、大変困難であることを絵に描いて説明する。 ・A子が理解できなければ、A子の欲しいものを手持ちの文具と交換すると仮定して、もう一度説明する。
20分	必要なものと欲しいものの違いを知ろう	
3分	3 お小遣い帳をつけてみよう。 ・「おかねりかいキット」でゲームをしながら、知るぽると「おこづかいきろく(お小遣い帳)」に収支を3ヶ月分記入する。	・月に500円のお小遣いの範囲でやりくり、今月の目標や次月報酬も記入させる。 ・D男には、生きたお金の使い方に気付かせるため、貯めることだけが良いわけではないことも説明する。
40分	4 友達のお小遣い帳はどうなっているのかな？ ・お小遣い帳を3ヶ月分記入し、発表し合う。	・C子に、予算が限られていることを理解させるために、同じようなものや手頃なものを買っていないか見直すように指導する。 ・無駄使いはないか、収入(お小遣い)の範囲を超えた支出になっていないか、話し合わせる。
45分	5 まとめ ・欲しいものと必要なものは必ずしも同じではないんだね。	・店とし物コーナーにあるもの、なくしたものの価値について考えさせる。 ・嫌いたりなくしたりしなければ、お金を無駄に使わなくて良いことに気づかせる。

みよう」「お金のトラブルを考えよう」  
 「未来を考えたお金の使い方を考えよう」の4つです。しかし想像以上に時間がかかり、授業計画の1/3しか実践できないこともありました。  
 まず夏休みに「どこへ行って、何を買ったか」という宿題を出題(資料2)。1時間目の授業では、その宿題をもとに、お金について考えさせたとあと、〆分かりやすさ〆を考慮して幼児用教材の「おかねりかいキット」をつかって500円分のお買い物ゲームをしました。お金につい

て理解してくれたいと思っていたのですが、実際にゲームをやってみると、「500円の予算で1,000円以上のモノがあたりまえのように手に入ると思ってしまう生徒もいて、教える難しさを痛感させられた」そうです。  
 また、すぐに飽きてしまう生徒が多いため、授業の途中で「消費生活カルタ」(資料3)やその授業とは関係のない日本地図の塗り絵をしたりして息抜きをする必要があり、なかなか思うようにはかどらないこともあったと言います。

そうこうするうちに「『全員にすべてを理解させようと焦るのではなく、個々の生徒のレベルに合わせて、できるところから実践し、分かるところまで理解させればよい』と思えるようになり、その後は、肩の力を抜いて取り組むことができたと思います。1時間目では、消費者庁の『消費者教育の体系イメージマップ』における幼児期の重点領域である『欲しいものがあつた時は、よく考え、ときには我慢することをお伝えよう』という指導ができました」。

【資料2】特別支援学級の夏休み宿題

**組 社会科 夏休み宿題**

年 組 番 名前 \_\_\_\_\_

① 今年の夏休みに行ったところを書きましょう。  
 暑のなまえや方位(東・西・南・北)もかけるといいですね。

どこ: \_\_\_\_\_ 誰か: \_\_\_\_\_  
 たとえば・・・おばあちゃんの家 静岡縣 ぼくのいえから家

② 買いものをしたところと何をいくらで買ったか書きましょう。

どこで \_\_\_\_\_ たとえば ほんぼうで買かん  
 なにを \_\_\_\_\_ たとえば ぱいぜん  
 いくらで \_\_\_\_\_ たとえば 300円

おうちの方へ  
 この夏休みの宿題は、2学期の社会科の学習のために役立てたいと思います。ぜひお子さんと一緒に書いてみてください。ここに書き込んでいただいた内容は、そこがどんなところかクラスのみんで調べるためであり、宿題のためにわざわざ出かけたり買い物をする必要はありません。また、差し支えない程度の記入でかまいません。お忙しいところ大変お手数かけますが、よろしくお願いします。

宿題と説明書でもいいよ。

一人ひとりのレベルに合った授業展開

特別支援学級では生徒のレベルをひと括りにすることはできません。「ようやく文字が読める」生徒、「文章の意味を理解できる」生徒、さらに「自分の考えをきちんと伝える」生徒まで、理解度には大きな差があります。例えば「お金について考えよう」というプリントに取り組ませたときなど、「新品で5,000円のゲームソフトと、中古で3,000円のゲー

ムソフト、どっちを買う？」という質問に対し、質問の意味が分からない生徒もいれば、「バグがあるといけないから新品が良い」「遊べれば十分なので3,000円の中古が良い」と理由までしっかり答える生徒もいました(資料4)。「このように、特別支援学級では生徒による個人差が非常に大きく、制度的にも生徒個人個人のレベルや状況に合わせた指導をすることになっています。普通学級では年間カリキュラムが細かく決まっており時間が足りず、金融教育

を取り入れたくてもできないことが多いのですが、特別支援学級では自由度が高く教えた内容にじっくり取り組むことができます。ただ、ただ理解できていて、何がわからないのか把握しづらく、ひとりに手をかけていると他の子が退屈してしまい、時間もからだもいくらあっても足りません」と山中先生は授業の難しさを話します。

今年も現任教で複数の特別支援学級を担当しており、やはりレベルは千差万別。「普通学級だって、すべて

【資料3】消費生活カルタ



「かいものはけいかくたててあわてずに」「ゆうきをだしていらぬものはことわろう」など、消費生活に役立つ知識を楽しくカルタで学べる「消費生活カルタ」。





## 特別支援学級こそ 金融教育を

の子が100点を取るわけではありません。特別支援学級に置き換えても同じことだと思えます。身近な問題として捉えやすい内容で、『できることから始め、分かるところまで理解させる』をモットーに取り組んでいます」。

山中先生は日ごろより、特別支援学級の社会科教育の中で最も伝えたい内容は、『おかねのはなし』・『災害にあったときどう行動するか』だと考えています。多くの内容を導入しきれない特別支援学級では、まず『金融教育』に取り組みたいと思いました。山中先生が最も生徒たちに伝えたいことは、「生きたお金の使い方」だったと言います。

「特別支援学級を担当することになったとき

は、初めてで不安でいっぱいでした。しかし、実際に生徒たちと関わってみると、その純粋な姿に心が洗われ、授業がとてもしみになっていました。この子たちが社会に出て、お金のことで苦い思いや辛い思いをしてほしくないと切実に思います。そしてまた、守ってくれる人がいないときも自分の身を守る術や、相談先として駆け込む先を『生きる力』として、記憶に残してもらいたい」と山中先生は強い思いを話します。

「2012年12月に消費者教育推進法が施行されましたが、まだまだ学校によって導入には温度差があり、特別支援学級向けの教材や資料が少ないのが現状です。障がい者がしばしば消費者被害などのトラブルに巻き込まれる実情を考えると、予防的措置としてもっと金融教育が普及してほしいですし、多くの先生が実践しやすいですね」と山中先生は呼びかけています。

【資料4】社会プリント～番外編～お金について考えよう

社会プリント ～番外編  
お金について考えよう

年 組 番 \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日 \_\_\_\_\_期

①最近買ったものや欲しいものがありますか？ \_\_\_\_\_

②どうしたら欲しいものが手に入るかな？ \_\_\_\_\_

③「入ってくるお金」使ったお金

収入	支出	貯蓄
_____	_____	_____

④どっちを買う？  
 2冊100円のノート  5冊500円のずてきなノート  
 その理由は？ \_\_\_\_\_

⑤どっちを買う？その2  
 新品のゲームソフト5000円  中古のゲームソフト3000円  
 その理由は？ \_\_\_\_\_

⑥おとしもの・なくしたものについて考えよう

今日のはじめは	①0円	②1円	③10円
思ったこと	_____	_____	_____

## 特別支援学級で「生きたお金」の金融教育を

愛知県  
安城市立安城北中学校 非常勤講師 山中みゆき氏